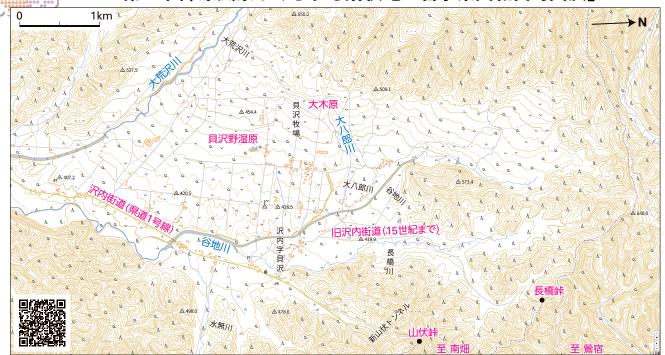
日本縦断地理院地図の人

第4回「原風景がみられる扇状地~岩手県西和賀町貝沢」



地図 地図 地理院地図 VECTOR で表示した大荒沢川扇状地 (2020 年 4 月 10 日作成)

1. 「地理院地図 VECTOR」、全国データが公開!

2020年3月より、「地理院地図 VECTOR」の全国データが公開された。本連載の第2回でも取り上げたように、「地理院地図 VECTOR」を用いると、道路、鉄道路線、建物などの色や線の太さ、文字の色や大きさ、地図記号の大きさを自由に改変し、オリジナルの地図を作ることができる。さらに、地図をブラウザ上で自由に回転させても文字の向きは変わらない。

2. 地理院地図 VECTOR で読み解く扇状地

地図1は、岩手県西和賀町の旧沢内村貝沢地区を流れる大荒沢川が盆地に形成した扇状地を、「地理院地図VECTOR」を用いて扇頂が上にくる形で表示したものである。大荒沢川が形成する扇状地の扇頂から扇央にかけては豊富な湧水がみられ、貝沢野湿原とよばれる湿地帯が形成されている。一部では戦後に開拓が行われたが、ハッチョウトンボの自生地では、貴重な生態系が保護されている。なお、大木原の八郎屋敷という場所には八郎伝説が伝わり、土器が出土している。

また、扇央には貝沢牧場とよばれる公共牧場があり、 採草地が60ha、野草放牧地が109ha ひろがっている。 江戸時代には盛岡藩の官馬が放牧され、近年も雫石から の牛馬を預かっていた。平成15年には延べ153頭が放 牧されていたが、現在は採草利用のみが行われている。



写真

「大荒沢川扇状地(地理院地図 Vector で鳥瞰表示)

谷地川に向かって筋状に小さな流れや谷が連なっていて, 地形図の等高線がジグザグになっている部分と対応している。

扇端に位置する貝沢地区は、岩手県雫石町から旧沢内村を経て秋田県横手市へと続く沢内街道沿いにあり、雫石方面からは、峠を越えた場所に位置する。現在の県道1号線(盛岡横手線)は、山伏峠を越える沢内街道のルートにほぼ沿っている。集落の家屋形態をみると、強風や豪雪に対応したものが多い。地形図の等高線は、扇頂〜扇央と比べてジグザグになっていて、扇端では地面の凹凸が大きくなっている。空中写真を鳥瞰表示させて確認すると、地形図には描かれていない細かい水の流れや侵食地形を確認することができる(写真1)。

このように、大荒沢川扇状地は、地形図と空中写真を 組み合わせて地形・気候を学習する題材に恵まれた場所 であり、機会があれば訪れてみたい。